

宣言文のポイントと構成

高山市平和都市宣言検討会議では、三つのポイントを大切に文書が作成されました。

- 宣言文を、市民一人ひとりが自分のこととして、世界の恒久平和の実現に貢献する意志を表明するものと位置づけました。
- 市民の心構えである市民憲章の精神を踏まえ、市民の平和への行動を促し、高山市らしくて分かりやすい宣言文となるように作成しました。
- 生き方や考え方によって、文章の捉え方は、人それぞれであることを踏まえ、市民の行動や考え方を狭めるような内容とはせず、それぞれの価値観や感性によって想像し、行動していただける宣言文となるように作成しました。

宣言文は、大きく三つの部分で構成されています。

■最初の「高山市は、……現実があります」では、高山市の特徴と世界の状況を記しています。高山市民は、長い歴史を通じて、暮らしを取り巻く「自然」や「文化」、「人」などとのつながりを大切にしてきたことから、「周りとのつながりを大切にしてきました」としました。また、国際連合の「国際平和デー」である9月21日を「高山市平和の日」と定めていること、そして、世界の平和を脅かしている代表的な事例として「紛争・テロ・飢餓・核兵器」を記しています。

■次の「私たちは、……尊重することを」では、「平和とは、笑顔で安心して日常を過ごせること」という多くの子どもたちの意見を踏まえ、平和のためには、戦争などの争いがないだけでなく、災害、犯罪、貧困、いじめ等がないことも必要であることから、「世界中の人々が安心して平和に暮らせる日が必ず来ることを願い」とし、その実現のために特に大切と思われる市民の行動として次の3つを記しました。

まず、戦後70年以上が経過する中、戦争や広島・長崎への原爆投下の記憶を風化させてはならないとの思いをこめ、私たちが、学び、未来へ伝えるべきこととして「戦争と核兵器の悲惨さ、愚かさ、恐ろしさ、そして命の大切さ」としました。



乗鞍岳に広がる花畑

次に、普段の暮らしの中に、「飛騨山脈に代表される素晴らしい自然」「ユネスコ無形文化遺産を含む高山祭や日本遺産の飛騨の匠に代表される伝統文化」「地域の人々の温かいつながりや高山を訪れる人々へのおもてなしの心」が存在することの尊さに鑑み、私たちが守り続けることとして「豊かな自然、誇れる伝統文化、人と人との絆」としました。



高山祭の屋台

その上で、観光は、異なる国や地域の文化や価値観への関心や理解を高め、平和な社会の実現に大きな役割を果たすとした「観光は平和へのパスポート」という国際連合のスローガンなども踏まえ、国際観光都市の市民である私たちが大切にすることとして「多様な文化を理解し、尊重すること」としました。



朝市を散策する外国人観光客

■最後の「私たちは、……宣言します」では、こうした行動を行う市民がいる都市を「平和都市」とし、「永久に」とすることで、世界の恒久平和の実現に向け、平和への取り組みを幾世代にもわたって続けていくという意志を表明しています。